

＜2019年 在日大韓基督教会・日本基督教団 平和メッセージ＞

在日大韓基督教会 総会長 金 鐘 賢
日本基督教団 総会議長 石橋 秀雄

日本基督教団と在日大韓基督教会は、1984年に宣教協約を締結してから35年の歴史を神に導かれてきました。わたしたちを結びあわせる主イエス・キリストは、十字架によって敵意の中垣を壊し、二つのものを一つにくださる和解と平和の主であることを信じ、以下の平和メッセージを宣言いたします。

＜天皇の代替わりをめぐって＞

本年5月、天皇の代替わりに伴い、改元が実施されました。しかし、国民が主権者であるべき日本において、社会生活の時間が天皇の交替に支配されることに強い疑念を覚えます。また、天皇の交替にともなって一連の行事が神道の装いのものに行われています。とくに秋に予定されている大嘗祭は、神道行事そのものにほかなりません。これらが公の行事として行われることは、憲法の定める政教分離原則に違背し、基本的人権である信教の自由を侵害するものです。

明仁前天皇は、沖縄をはじめ太平洋諸島への「追悼の旅」を繰り返してきました。そこに平和を願う意思は表されたものの、かつての戦争と植民地支配にかかわった昭和天皇の責任が表明されることはありませんでした。戦後74年間、日本の国と国民が、天皇と日本国家の歴史責任を不問に付してきた姿勢がそこに現れているともいえます。日韓関係における旧日本軍「慰安婦」問題や、いわゆる「徴用工」問題などの根底に、こうした戦後責任の問題が横たわっています。わたしたちは、北東アジアにおいて日本が真実に和解と平和を構築する道をたどるために、戦争と植民地支配の歴史にかかわる戦後責任を自覚し、表明し続けます。

＜憲法第9条と安保問題をめぐって＞

今、沖縄の民意を踏みにじり、また環境破壊をも伴って、辺野古米軍基地建設工事が強行されています。主権国家であるはずの日本が、日米安保条約と日米地位協定によって米国に従属させられていることのあからさまなしです。わたしたちは、沖縄の人びとの辺野古基地反対の声を支持し、連帯していきます。

安倍政権は、北朝鮮や中国の脅威を過度に強調し対決姿勢をあらわにしながら、武器輸出三原則見直し（2014年4月）、集团的自衛権行使容認（同年7月）、安保関連法制（2015年9月）に続き、憲法第9条への自衛隊明記を主張し、戦争のできる国への道を突き進もうとしています。しかし、永久の戦争放棄と戦力不保持を定め交戦権を否定した現行憲法第9条は、世界平和の象徴であり、また世界への約束です。わたしたちは、キリストの平和の福音に基づき、憲法第9条改定に断固反対するとともに、日本と朝鮮半島の非核・平和の道の構築を宣教の使命として、目指します。

＜原子力行政と福島放射線健康被害をめぐって＞

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所爆発事故は世界に影響を及ぼし、ドイツなどの諸国が原発の縮小・

廃止へと政策を転換しました。しかし日本政府は従来通りの原子力政策に固執し、放射線被ばく被害（甲状腺がんなど）の徹底究明どころか、原発事故と健康被害との関連性さえ認めようとしていません。自然環境の取り返しのつかない破壊をももたらしかねない政府の姿勢には、核兵器開発のもくろみも疑われています。わたしたちは、政府と東京電力のこうした姿勢への怒りと憂慮を表明するとともに、脱原発の道を提唱し、また放射線健康被害状況の徹底究明を求めます。

＜ヘイトスピーチ問題をめぐって＞

2016年6月にヘイトスピーチ解消法が施行されましたが、罰則の伴わない理念法にとどまっています。街頭やインターネット上での在日コリアンに対するヘイトスピーチ行動は止むことがなく、その広がりは深刻です。1923年の関東大震災の際には、こうした差別的流言飛語によって朝鮮人虐殺事件が起こったことを忘れてはなりません。わたしたちは、いのちを脅かし社会を頹廃させるヘイトスピーチの防止のため、より徹底した法改正を強く望みます。

＜朝鮮高校無償化問題をめぐって＞

日本政府は、北朝鮮との間の外交上の問題を理由に、理不尽にも朝鮮高校を高校無償化の対象から除外しています。これは在日コリアンに対する明白な民族差別であり、子どもの教育権に対する侵害行為として、国連人権機関も再三、是正を勧告しています。わたしたちは、日本政府が差別政策を即時撤回し、朝鮮高校の無償化を実現するよう求めます。

＜在日外国人政策をめぐって＞

日本社会の労働力不足に伴い、「技能実習制度」が実施されて10年になりますが、国際貢献という法目的と全くちがって、外国人を低賃金労働力として酷使し、深刻な人権侵害がもたらされています。また、昨年の入管法改定によって、新たに「特定技能1号・2号」という在留資格が設置されましたが、これは技能実習生の在留期間を引き延ばし、低賃金労働体制を温存するものです。

現在、すでに在日外国人280万人、外国人労働者がおよそ150万人に及ぶいっぽう、1万人を超える在日外国人児童が未就学状態に置かれています。わたしたちは、日本政府が、外国人労働者力を使い捨てる発想に基づく入管行政を改め、共生を尊重する政策へ転換することを強く願います。

わたしたちの教会は今、地球を席卷する過酷なグローバル経済の下で激変していく社会にあって、この世に遣わされたキリストの体なる教会として、寄留者を歓待の精神で迎えながら、単にナショナルな教会ではなく、教会自体が寄留者の招き入れられる「神の家族」（エフェソ書2：19）として改革されて行くことが求められています。それは同時に、教会自体が今から次の時代へと、頭なる主イエス・キリストによって生かされ、遣わされ、用いられる道であると考えます。

教役者研修会でカナダ訪問 「マケドニアの幻にしたがって」軌跡を辿る



元老宣教師一同

2019年の教役者研修会で在日大韓基督教会（以下KCCJ）の教役者21人は、去る6月10日～13日にカナダのトロントを訪問した。私たちが在日同胞たちに福音を伝えるため、キリストの愛に生涯を捧げたカナダの宣教師たちの軌跡をたどり、1927年から92年間に34人の宣教師をKCCJに派遣したカナダ長老教会（以下PCC）総会とカナダ連合教会（以下UCC）総会を訪問し、生存している9人の元老宣教師たちとの交流、またトロントでカナダの宣教師の朝鮮宣教と在日同胞宣教の活動をまとめた資料館およびトロントの韓国人教会を訪問して、同じディアスポラ教会としての深い交流を持ちながら意味深い3泊4日の日程を行った。

6月10日(月)の午後にトロントに到着した一行は、海外韓国人長老会（以下KPCA）ミラル教会（盧昇煥牧師）にて歓迎晚餐と開会礼拝から始まって、11日にはカナダ長老教会（PCC）総会本部を訪問した。何十年も前に撮影されたKCCJの各教会の写真を展示した資料室が、私たちを最初に迎えてくれた。会議室では、PCC、UCC総会の役員と実務者らと共に報告会や懇談会、そして昼食を分かち合いながら貴重な時間を持った。

午後には、KCCJ先輩の牧師たち（金元治、李仁夏、崔京植、金得三、黄義生、金必順など）が留学に来て勉強していたトロント大学ノックスカレッジを訪問した。175年の歴史をもつこの大学は、カナダ長老教会のリーダーを輩出する由緒ある世界的な神学校である。学長、副学長が大学を紹介し、質疑応答で意味深い時間を過ごした。



麦仁道宣教師碑石（トロント韓人長老教会境内）



グレン・グレン・デービス牧師の講演

この日の夜はトロント韓国人長老教会（PCC、孫明壽牧師）の招きで、晚餐と元老カナダ宣教師たちとの出会いの時間を持った。まず主題講演を過去に福岡教会で牧会されたグレン・デービス牧師が担当した。デービス牧師は、双方向の宣教と題して15年に及ぶ在日大韓基督教会での働きを終えてカナダに帰国する際には、日本からカナダの教会に再び派遣されるとの心で帰国し、新しい働きに臨む



在日宣教師資料展示館



カナダ長老教会訪問



元老宣教師に感謝の挨拶

ことができたことを話した。グレン・デービス牧師は、流暢な韓国語で当時の宣教状況を伝え、9名の宣教師たちが順番に神様の導きを受けた日本宣教の歴史を回想した。私たちがその高貴な献身と苦勞に感謝し、挨拶を交わし、麦仁道宣教師（John McIntosh）の記念碑があるトロント韓国人長老教会を後にした。

6月12日(火)はトロントのダウンタウンにある「在韓・在日カナダの宣教師資料館」を訪問した。館長の黄煥瑛長老、総務の李ハンス執事の案内で在韓カナダ宣教師と在日カナダ宣教師たちの歴史と状況に写真と資料で接することができた。カナダ宣教師として、在日同胞宣教の門を開いたL.L.ヤング宣教師の写真には、「天国に来たら私を韓国人の中から探さない」という文字が刻まれており、私たちの胸を熱くした。なによりこの展示館は次世代ミッションに向けて、ここを訪れる若い献身者たちに大きなチャレンジを投げかける学習センターとして大きな役割を果たしている。

午後には、近くのナイアガラ滝を観光しながらナイアガラ韓人教会（KPCA、徐郁洙牧師）を訪問し、昼食を共にしつつ交わりの時間を持った。私たちを招待してくださった徐郁洙牧師はKPCA総会長在任時に、KCCJ宣教100周年記念式ならびに、京都教会で開催された第50回定期総会に来賓として出席したことがある。

閉会礼拝は、水曜祈禱会を兼ねてトロント永楽教会（KPCA、宋民浩牧師）の招きで晚餐と、金鐘賢総会長の報告および交流を持ちながら、すべての公式日程を終えた。

その昔、「渡って来て、わたしたちを助けてください」とのマケドニアでの幻にしたがって、はるか遠い朝鮮の地に、そして日本の地に、ただキリストの福音だけを携え、生涯をかけて仕えたカナダ宣教師たちがいた。彼らの信仰と宣教のビジョンは、日本で次世代のKCCJを継承していく私たちに見せてくださった神様の新しいビジョンに繋がっていくと信じる。

集会場所の提供や食事会に招待して下さったミラル教会、トロント韓人長老教会、ナイアガラ韓人教会、トロント永楽教会、案内と通訳を務めてくださったDavid McIntosh宣教師に深い感謝の意を表す。（報告：金仁果牧師/教育委員長）

公告 在日大韓基督教会 第55回 定期総会 召集

在日大韓基督教会 第55回定期総会を総会憲法第13章（総会）、第60条（定期総会組織）、第61条（定期総会召集）と総会規則第2章（定期総会）、第3章（総代）第3条（総代及び準総代）、に基づいて次のように召集します。

(1) 主題：「믿음을 키워 이 세상의 빛으로」(요 8:12)

「信仰をはぐくみ、この世の光に」(ヨハネ 8:12)

(2) 日程：2019年10月13日（主日）19:00～10日（火）17:00

(3) 会場：在日大韓基督教会 名古屋教会 名古屋市中村区名駅2-39-11 (☎052-541-1980)

※「総代・準総代の交通費・宿泊費は各地方会が負担し、女性会・青年会代表はその機関が負担する」

（総会規則 第3章第3条4項）

2019年8月1日

在日大韓基督教会 総会長 金鐘賢 書記 趙永哲

第52回日本基督教団との 宣教協力委員会開催

去る 6 月 3 日 (月) 日本基督教団 (以下 UCCJ) と在日大韓基督教会 (以下 KCCJ) の宣教協力委員会が東京の日本キリスト教会館 UCCJ 会議室で行われた。「両教会の宣教課題について—2・8、3・1 独立運動100周年と教会」という主題をもって行われた今回の委員会には、UCCJ から総会議長の石橋英雄牧師をはじめ11名、KCCJ から総会長の金鐘賢牧師外 7 名が参席した。

主題に沿って李省展長老 (KCCJ 川崎教会) が講演を行い、100 年前の東京の地で起きた、朝鮮からの留学生による 2・8 独立宣言の意義や、朝鮮半島で起きた 3・1 独立運動における教会の役割などを述べた。それぞれの教団報告や宣教の課題を分かち合ったが、その中で UCCJ の「牧会者とその家族のための相談電話」を開始したとの報告には、KCCJ もそのような牧会者に対する



ケアの必要性があると認識させられた。

その後 2019 年度の「平和メッセージ」の草案について協議し、それぞれ 8 月の機関誌に掲載することになった。

カナダ長老教会定期総会 に総会長・総幹事が参席

去る 6 月 5 日、全国教役者研修会のためカナダを訪れていた金鐘賢総会長と金柄鎬総幹事は、トロント近郊で行われたカナダ長老教会 (PCC) 第145回定期総会に来賓として参席し、挨拶の中で 92 年間宣教者を派遣し、在日同胞宣教への尽力に対し感謝の意を刻んだ感謝牌を贈呈し、万丈の起立拍手を受けた。



青年会全協

第3回中央委員会開催 夏季修養会開催に向け討議

2019 年 4 月 27 日 (土) ~ 28 日 (主) に愛知県民の森で第 3 回中央委員会会議を行った。この場所は第 70 回夏の修養会 (以下夏修) の開催地になる予定で、役員全員で下見も兼ねての会議場となった。

初日の会議は各部報告から始まり、夏修のプログラム内容などを協議し、翌日の主日礼拝は中部地方会の 6 教会 (長野、浜松、豊田めぐみ、豊橋、岐阜、大垣) に分かれて出席し、信徒たちとの交わりや青年会の活動などを紹介した。今年の夏修は 70 回目の節目を迎えることを神様に感謝し、全力で取り組んでいきたい。

次回、第 4 回中央委員会は関西・西部地方にて行われる予定である。
(報告: 乾春紀)

全国女性会

創立70周年記念式典開く 第62回定期大会も併せて

2019 年 6 月 24 日 (月)、全国教会女性連合会 (以下: 全国女性会) 創立 70 周年記念式典を大阪教会において主の祝福と導きの中で執り行うことができた。式典には海外、日本各地より約 170 名が集い、感謝と喜びをもって礼拝をささげ、全国女性会の 70 年の歩みを振り返り、ともに交わる恵みあふれる時を過ごした。

第 1 部の記念礼拝は、鄭然元牧師 (大阪) が「神に愛されている人々」という題目でローマ書 11 章 25 ~ 29 節から説教をし、裴貞愛牧師 (京都) の司式で聖餐式が執り行われ、全国女性会第 9 代会長の慶恵重牧師 (品川名誉牧師) による祝祷がなされた。

第 2 部の記念式典では、来賓として韓国教会女性連合会の関景子前会長、カナダ長老教会女性宣教会の Janet Brewer 会長、日本キリスト教協議会女性委員会の北村恵子委員長、社会福祉法人シャロームケアハウスセトンの家の権玉華理事長、在日大韓基督教会の金鐘賢総会長から祝辞を受けた。

第 3 部のシンポジウムでは、カナダ長老教会女性宣教会 (Women's Missionary Society) Sarah Kim 総務が連帯の重要性について、韓国教会女性連合会の辛美淑総務が「教会の女性たちよ! 命と平和を賛美せよ」の題で連合と一致のための運動、脱核、生命、平和運動、教会改革運動、エキュメニカル女性の連帯について、全国女性会からは李炫知会長が、牧師の権力主義、教会女性の啓蒙活動、宣教活動支援など全国女性会会員が共に共有すべき課題と今後のあり方について述べ、質疑応答の時間を持った。

第 4 部の記念イベントでは全国女性会の現在の活動、また 70 年間の歴史を振り返る寸劇が行われた。寸劇中には歴代会長、歴代総務、女性会員の写真など思い出の写真がスクリーンに映

し出され、懐かしい時となった。イベントの後はレセプションが開催され、食事をしながら会話に花が咲いた。

70 周年記念式典のためご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げる。70 周年を迎えた私たち全国女性会は「主に接ぎ木された者として~新しい時代を拓く教会女性~」と主題・副題を掲げた。これから 80 周年、100 周年に向かい、十字架を見上げ、主に接ぎ木された者として新しい時代を拓く教会女性となり邁進する所存である。

また、翌日開催された第 62 回定期大会にて選出された新委員は以下の通りである。

会 長: 李炫知 (神戸)、副会長: 宋福姫 (名古屋)、
書 記: 李正子 (名古屋)、副書記: 李恵淑 (東京)、
会 計: 李銀珠 (横浜)、副会計: 梁律子 (神戸)、
教 育 局: 金錦順 (布施)、
宣教社会局: 李敏禮 (西新井)、
財 政 局: 姜志鮮 (大阪)、
心のケア局: 崔美恵子 (武庫川)、
関東会長: 朴英遠 (品川)、中部会長: 金珍明 (長野)、
関西会長: 高慶美 (大阪)、西部会長: 兪貞恵 (武庫川)、
西南会長: 李好子 (小倉)、
会計監査: 韓榮蘭 (福岡)、慎静子 (豊中第一復興)
総 務: 石橋真理恵



熊本教会

被災3年で教会堂建築 120名が参席する中、喜びの献堂式



1951年に設立した熊本教会が、2016年4月の熊本・大分地震で被災した。それでもボランティアセンター「エルピスクまもと」の被災者支援活動の拠点としての働きを担ってきた。そして震災後3年を経て、神の導きにより会堂の建て直し

がなされ、去る2019年7月15日、西南地方会各教会、教団九州教区・熊本地区各教会、九州中会各教会から120名を越える人々が集い、喜びの献堂式をささげることができた。

建坪は約70坪で、1階に礼拝堂・ホール・事務所・宿泊可能なスペース、2階を牧師館とし駐車場も広がった。総工費約7千万円で、完済までには1千万円がまだ必要である。

なお、この会堂建築には日本基督教団「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」500万円が用いられている。九州教区と在日大韓基督教会との共働である「エルピスクまもと」の働きと熊本教会の再建は宣教協約の実質化の実りである。これからもその働きのためにこの会堂が用いられることを願う。

(報告：金聖孝牧師)

西部女性会

三役拡大連席会議開く 2019年度の活動計画などを討議

西部地方教会女性連合会第18回三役拡大連席会議が2019年5月30日(木) 姫路教会において5教会から20名の出席で開催された。

2019年度の活動計画の討議が行われ、全国教会女性連合会創立70周年記念式典・第62回定期大会参加、1日研修会、第32回修養会、第17回信徒の集い、会長会議、世界祈祷日、第22回復活節合同讃美礼拝参加などを討議した。

(報告：尹豊子)



京都教会

横山正一長老将立式挙行 名誉勳士・名誉執事推戴式も同時に



去る6月16日(主日)京都教会において、横山正一長老将立式と趙和子名誉勳士と金斗千・金玉蓮・孫梅子・星山英子・孫菊枝・金安子・許仁子名誉執事の推戴式が行われた。

関西地方会の諸教会から大勢の方々が参席し、金武士牧師が「このような人たちが重んじなさい」(Iコリント16:13～18)という題で説教した。

長老将立式と推戴式は、京都教会の堂会長で関西地方会長の林明基牧師の司式により行われた。特にこの式典には韓国の姉妹教会である釜山の平光教会から禹斗詠牧師と崔榮基長老も来賓として参加し、祝辞を述べるなど喜び溢れる恵み豊かな式典であった。

この度将立された横山正一長老は、1953年京都で生まれ、2011年から執事として2015年から按手執事として奉仕してきた。

西南地方会

ヘイトスピーチを考える共同集会 献堂式後に九州教区と共同で開く

7月15日、熊本教会の献堂式の午後、新築教会堂にてヘイトスピーチを考える共同集会Ⅴが行われ49名が出席した。マイノリティ宣教センターの金迅野牧師を迎え『物語』の欠如に関連する「まずさ」について学んだ。

講演では今日の憎悪の根底には、言葉の劣化、個人の物語の喪失という現実が横たわっているにもかかわらず、そのことに気づかぬように「世界」が構成されていることに気付かされた。そのような「世界」の在り方に慣れてしまっている私たちに對して、イエスは他者の痛みをなかつたことにしてしまう「世界」の表皮を引き剥がし、その下に息づいている他者の痛みや苦悩の<世界>に身を寄せ、からだを使って平和と和解をつくるための身振りを、さまざまな形で示されたことを学んだ。

法律によって暴力を縮減していくと同時に、イエスにならって日々の生活のなかでクリスチャンとしてどのように平和や和解を築いていくべきかを考える機会となった。

(報告：尹善博牧師)



関東地方会

東京希望キリスト教会で委任式 具滋佑牧師が新たに赴任し、盛大に



去る2019年5月26日(主日)関東地方会・東京希望キリスト教会において具滋佑牧師の委任式が行われた。

臨時堂会長金柄鎬牧師の司会で行われた礼拝では、朱峻台牧師(高神総会元総会長)が「理想的な教会の姿」(ヨハネ黙示録22:1～7)という題の説教をした。

また、関東地方会長の金秉喆牧師の司式で行われた牧師委任式は、誓約と祈祷、宣布が出された。

委任された具滋佑牧師は1957年韓国で生まれ、高麗神学大学校学部と神学大学院を卒業し、1989年大韓イエス教長老会(高神)の慶東老会で牧師按手を受けた。2013年から2018年まで高神総会の事務総長(総幹事)を歴任し、この度東京希望キリスト教会の請聘により日本宣教師として派遣された。特に具滋佑牧師が高神総会の事務総長在任の際、在日大韓基督教会と高神総会が宣教協約を締結した経緯があり、韓国教会との協力や交流においての架け橋の役割に大きく期待される。

家族は夫人と2女がいる。

<お知らせ>

- 事情により福音新聞7月号は休刊致しました。
- 総会事務局は8月13日(火)～16日(金)、夏季休暇のためお休みします。